

## 「揺るぎない耐震性を求めて」

主任司祭 吉池 好高

昨年秋の臨時信徒総会において、皆様にお諮りし、御審議いただきましたように、本年は聖堂をはじめとする、構内の建物の精密耐震診断の実施が予定されています。

老朽化が目立っている現在の諸施設について、将来を見据えて、どのような方策を立てるかは、長年にわたる私たちの懸案事項でした。現在の建物を取り壊し、全面的に新築することも視野になかったわけではありませんが、現時点の財政状況を考慮すると、何よりも私たちにとって愛着の想いの強い、現在の聖堂のたたずまいを出来るだけ存続させることが最善と判断し、現在の形状を保ったまま補強改修に取り組むことといたしました。

その際、老朽化している現在の諸施設を出来る限り長期にわたって安全に維持することを目指して、公的機関の基準に合った精密耐震診断を実施することが、早急に取り組むべき課題であると判断した次第です。あわせて、美観と利便性の向上のために必要となる施策も今後検討してまいらなければなりません。

このような大がかりな計画を実施するに当たって、心に今去来するのは、建造物の耐震性もさることながら、それを目指す私たちの共同体の耐震性ということです。耐震性とは言うまでもなく揺れに耐えうると言うことです。

このような大がかりな計画を共同体として立案実施してゆくに当たっては、揺れを覚悟し、想定していなければなりません。無理に揺れを抑えようとする、かえって大きな被害を受けかねません。耐震性の要は、軽量化と免震性です。教会共同体の軽量化は、しがらみに囚われない心の軽やかさによってもたらされます。免震性は意見の相違を恐れず、相互の基本的な信頼関係を確認することによって保証されます。そして何よりも、このプロジェクトを通して、私たちが愛する高円寺の神の家への愛情に支えられた協力関係が求められています。

私たちの営みに神の祝福がありますように。